

「しずぽん」が桜満開の駒門駐屯地創立記念行事を盛り上げる



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、4月7日（日）、陸上自衛隊駒門駐屯地（御殿場市）の「創立59周年記念行事」に広報ブースを設置し、同行事を盛り上げた。

清々しい青空に満開の桜が咲き誇った駐屯地には県内外から7341人の来場者が訪れ、普段はなかなか体験することのできない戦車試乗などで自衛隊を満喫することも、精強な隊員が凛々しく活動する訓練展示などを見て来場者から感嘆の声があがった。

静岡地本は厚生センター内に広報ブースを開設。陸・海・空自衛隊の制服試着体験や子供向けめりえコーナーで自衛隊を身近に感じてもらうとともに、興味のある若者や家族連れに自衛官採用制度について説明を行った。地本ブースは自衛官と気軽に話せる場としても人気で、「どうして迷彩の柄が違ふんですか」「この駐屯地には何人くらいいて、どのような仕事に就いているんですか」などの質問や、「幹部自衛官を目指して防衛大学校に入りたい」「息子に、進路の一つとして自衛官を勧めたい」という希望に合わせて、広報官が一人ひとり丁寧に説明して理解を得ていた。

また、静岡地本の応援団長「しずぽん」も、多くの人で賑わう駐屯地のメインストリートに登場。満開の桜の下、しずぽんと記念撮影をしようとする子供たちが人だかりをつくり、大人気となった。

静岡地本は、今後も県内各地のイベントに参加して広報活動を実施し、より自衛隊を身近に感じてもらう、ともに国防を担う高い志を持った若者のサポートに邁進していく。

ジュビロ磐田公式戦に自衛隊が登場



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は4月14日（日）、小笠山総合運動公園エコーパで行われたJリーグジュビロ磐田公式戦において、航空自衛隊・陸上自衛隊の部隊とともに自衛隊の活動をPRした。

これは、株式会社ジュビロと袋井市から、ジュビロ磐田公式戦を盛り上げてほしいとの依頼があったもので、昨年に引き続き2回目。当日はジュビロ磐田が、同じ静岡県を拠点とする清水エスパルスと対戦し、県内では「平成最後の静岡ダービー」と盛り上がりを見せ、会場には3万人を超える多くの来場者が訪れた。

自衛隊はスタジアム前広場に広報ブースを開設し、板妻駐屯地の第34普通科連隊（御殿場市）が軽装甲機動車、高機動車、大型トラック、偵察用オートバイを展示し、静岡地本が子供用迷彩服試着体験コーナーを設置、記念撮影をする親子連れなどで賑わった。

また、自衛官採用制度説明会も開催し、社会人の男性から自衛官への転職相談などもあり、これまで培った資格を生かした技術曹をはじめ、一般曹候補生や自衛官候補生について説明すると、「若い頃から自衛官に興味があった。国家資格を生かして自衛官に挑戦してみたい」と受験への意欲を見せていた。

一方、航空自衛隊浜松基地（浜松市）が、地元の三ヶ日みかん果汁を使ったオリジナル唐揚げ「浜松基地空自空上げ」を、第34普通科連隊が、災害派遣などで活躍する野外炊具1号で作った豚汁を1000食ずつ来場者に振る舞った。自衛官がつくったメニューを手にした来場者は、迷彩服で調理する自衛官の写真を持ちつつ、「思いがけない場所で自衛隊の炊き出しを食べることができて、一層美味しく感じた」と話していた。

静岡地本は、今後も部隊等と連携して担当地域における広報活動を積極的に行い、地域住民の自衛隊に対する正しい認識と理解の向上に努めていく。